

平成19年10月24日

響きあう石内っ子をめざして

広島市立石内小学校
校長 松島 利一

秋も深まり、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
平素より本校の教育活動にご協力いただき深く感謝しております。

さて、「児童に対するアンケート」を今年も行いました。子どもたちが自分自身で学校生活について評価し、日常生活態度を振り返るとともに、教職員が児童の実態を把握して、今後の指導に生かすための資料とします。

アンケートにあげている項目は石内小学校で特に重点を置いて取り組んでいる目標です。保護者の方も、是非この資料をもとにして、子どもたちと日頃の学校生活について話し合いの場を設けてみてください。

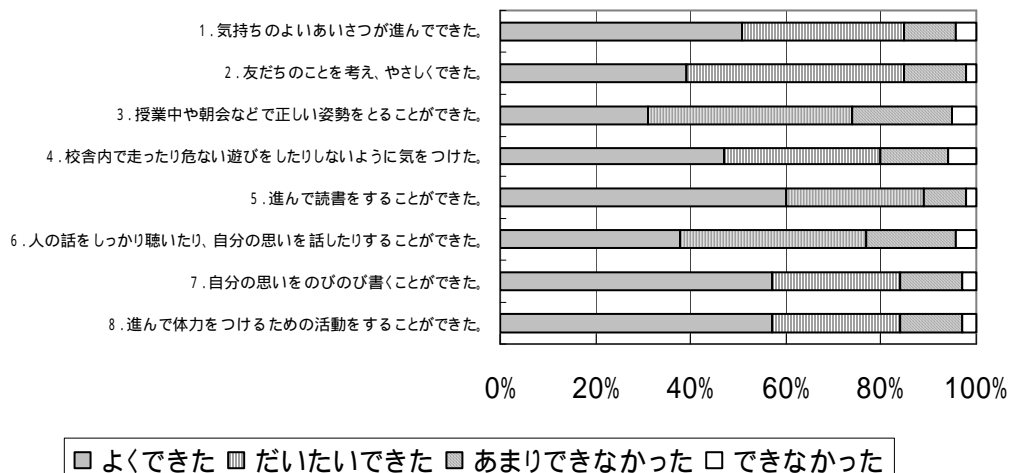
学校としましても今回の中間評価をもとにして、後期の指導をより工夫し、改善していきたいと思えます。

保護者の方のご意見やご感想等がありましたらお知らせください。

(1) 集計結果について

7月10日(火)に、石内小学校全学年の児童を対象に一齐にアンケートをとりました。子どもたちは日々の生活を振り返りながら、一生懸命答えていました。

平成19年度 学校生活についてのアンケート 第1回(児童)

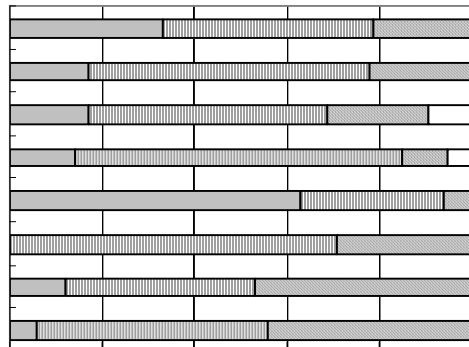




児童にアンケートをとる前に、教職員全員が自己評価を行いました。評価内容は、児童用のアンケートをふまえ、指導の改善を図るための資料になるように作成しました。教職員は、全体的に厳しい評価をしています。

平成19年度 学校生活についてのアンケート 第1回(教職員)

1. 名前を呼び、進んで児童にもあいさつをするように呼びかけた。
2. 教育活動全般を通して友だちを大切に作る人間関係作りに努めた。
3. 正しい姿勢を保つように意識づけた。
4. 校舎内での安全な過ごし方について呼びかけた。
5. 朝の読書タイムを週2回以上実施した。
6. 教材研究を深め、指導法を工夫した。(聴く・話す)
7. 日常的に書く指導に取り組んだ。
8. 体力をつける活動を勧めてきた。



0% 20% 40% 60% 80% 100%

□ よくできた ■ だいたいできた ■ あまりできなかった □ できなかった

(2) 今後の取り組みについて (改善点)

アンケートから把握したこと

- ・ 今後の取り組みと改善点

あいさつについて

ほとんどの子どもたちができたと感じているようですが、自分から進んであいさつをしていない子どももいます。もう少し全体的な意識を広げていく必要があります。



- ・ クラス目標を掲げたり、あいさつ週間を設けたりするなどして取り組んでいきます。
- ・ 教職員も教室に入る時や帰る時などにひとりひとり声をかけていきます。

友達のことについて

できたと答えている子どもたちが多いようですが、友だちに対して言葉がきつかったり、優しくできなかったりする子どももいます。



- ・ 優しくしている場面をほめたり優しくしてもらってうれしかったことを話させたりして、思いやりの気持ちを育てていきます。
- ・ 言葉遣いやうれしい声かけについて考えさせていきます。

正しい姿勢について

全体的にはできていないようです。できたと答えている子どももいますが、実際には指導すべき点が多くあります。



- ・ 姿勢を正しくする必要性を保健的な観点からもその都度説明をして、声かけをしていきます。

校舎内でのすごしかたについて

ほとんどの子どもたちができたと答えていますが、実際には注意することが多かったです。



- ・ 危険な場面について具体的に話をして意識づけていきます。
- ・ 教職員全員でその場で注意したり指導したりしていきます。

読書について

全校挙げて取り組んできた朝読書の時間が定着し、多くの児童が、進んで読書をするのができたと答えています。しかし、1 割前後の児童は、あまり読書に親しむことができなかった

ったようです。



- ・引き続き、読書カードの活用や学級図書の実に努めます。
- ・読み聞かせや本の紹介などをして読書への興味を上げていきます。
- ・図書室が狭い、蔵書数が少ないなど図書環境の厳しさを抱えていますが、改善に努力していきます。

聴くこと・話すことについて

全体の2割をこえる児童があまりできなかったと答えています。特に高学年になるにつれて、厳しい評価をしています。



- ・教職員自身が児童の顔を見て対話するように心がけます。
- ・話を最後までしっかり聴くことが、相手を大切にすることであることを繰り返し指導してきます。

自分の思いを書くことについて

できたと答えた児童が多く、文章を書く意欲を持っていることがわかります。しかし、書く量や表現力には課題があるようです。また、書くことを苦手としている児童もいます。



- ・書くことがもっと楽しくなるように、自分の思いがよく書けている作品を紹介したり、時にはテーマを与えたりしながら、日記や作文の書き方の指導を続けていきます。また、コメントに気を配って、子どもがさらに意欲的に書けるよう支援してきます。
- ・書く機会を増やすとともに、子どもが作文を書きたくなるような楽しい学校生活が送れるように努めていきます。

体力をつける活動について

進んで活動できたと感じている児童が多く、全校を挙げて取り組んできた「体力づくり」の成果が表れてきているようです。



- ・引き続き、年間を通してスーパー昼休憩の取り組みや鉄棒・なわとび・ジョギング週間の設定など、体力アップに向けての取り組みを進めていきます。
- ・運動場が狭く、十分な運動を保障できない厳しい教育環境ですが、学校全体で取り組んでいける活動を積極的に計画してきます。

